



2021年12月20日

日本鉄道労働組合連合会

J R グループ 労組連絡会「第 18 回 分科会 プロジェクト」 2022 春闘方針策定に向け活発な意見交換



労働調査協議会による基調講演

J R グループ 労組連絡会は 12 月 9 日、名古屋市で「第 18 回 分科会 プロジェクト（以下 P T）」を開催し、幹事会とグループ 92 単組の代表者、エリア連合担当者など総勢 90 人が出席した。

P T では、J R 産業に安心感を取り戻すべく、この難局を加盟全単組が一丸となって乗り越え、働く仲間により一層誠実に向き合い、J R 産業に集うすべての仲間の雇用と生活を守り、人材の定着・確保と離職防止、採用競争力強化にむけた取り組みを強化するため、分科会別意見交換会を通じた活発な議論のもと、2022 春闘方針策定に向けて意思統一を図った。

幹事会を代表して奥村敬弥代表幹事（J R 東海連合・東海交通事業労組委員長）は挨拶で、J R 産業の回復と反転攻勢に向け、今こそ中長期的な視点で未来を見据えた「人材への投資」が必要であり、2022 春闘では J R 産業に集うすべての仲間の賃金を「働きの価値に見合った水準」へと引き上げるべく、分科会別意見交換会を通じて各単組と課題認識を共有化し、取り組みの強化に繋げていくことを強く要請した。



奥村代表幹事による代表挨拶

基調講演では、労働調査協議会の後藤嘉代主任調査研究員より「賃金実態調査データの見方と活用」に関する講義を受け、集計データの活用方法等について理解を深めた。

なお、J R 連合及び J R グループ 労組連絡会は、P T での議論経過等を踏まえ、今後 2022 春闘方針（案）の策定を進め、2月10日に開催予定の「2022 春闘総決起集会」において確認・意思統一することとしている。



分科会別での意見交換会